



## 会からのお知らせ

### ○5月度定例役員会

日時 5月13日(土) 13:30～15:00  
場所 ふるさと歴史館 視聴覚室  
役員会の前にニュース封入作業があります。

### ○第45回東村山雑学講座

日時 5月13日(土) 15:00～16:30  
場所 ふるさと歴史館 視聴覚室  
演題 「フランスからみた日本と日本人－日仏文化の比較－」  
講師 アラン・ヴァクジアル氏  
元フランス外務省 官僚、大使特別アドバイザー

### ○春季代議員会報告

3月6日(月) 17:30～18:30 於 早大大隈講堂

出席者：  
小野智、田口政澄、當間昭治、(事務局長会議に代理出席井垣和太)

白井克彦会長(総長)挨拶

大学としての学績は順調に推移。大隈講堂は本年4月よりリニューアル工事来年10月完工。  
空調設備・消防設備完備、多目的利用の近代的機能を有する講堂に変身。

大隈記念タワーが3月25日にオープン。16階は校友会サロン、15階レストラン。

本年度卒業生から、10年分の校友会費を自動的に徴収(本年度は4万円)。  
従来は卒業生＝校友であったが、今後は校友会費納入者＝校友という概念に代わる。現在会費納入者は49万人のうち8万人であるが、会費納入促進(12万人へ)に是非協力を。  
代議員等へ直接会費を渡す納入方法など簡便な方法も導入する。

### 協議事項

#### I. 2005年度活動報告

稲門会数・・・地域392、海外51、職域364、年次258、ゼミ31、  
体育18、サークル47、有志62 合計1,228

会費納入者数・・・83,676人 前年比 +244人

行事・・・秋季代議員大会(10/1) 稲門祭(10/22) ゴルフ大会(11/7)  
春季代議員大会(3/6) 卒業式前夜祭(3/24)

校友サービス・・・①早稲田学報(4月よりリニューアル。隔月発行)  
②稲門コミュニティー(インターネットによる各種サービス)

後輩への支援・・・①校友会給付奨学金(400名に30～36万円給付)  
②安部磯雄記念奨学金(体育各部20名に30～36万円給付)  
③寄付講座(オープン教育科目で早稲田の歴史人物などを教材)

大学への支援・・・①稲門祭(1,100万円を125周年記念事業へ募金)  
②ゴルフ大会(1,128,485円を同上へ募金)

#### II. 2005年決算見込み

収入358,484千円、支出372,906千円、14,400千円の赤字見込み。

#### III. 2006年度活動計画

会費納入促進・・・目標：2007年3月までに校友会費納入者12万人を目指す。  
「校友会費納入促進カード」の活用により、納入者拡大運動推進。

行事・・・秋季代議員会(9/26) 稲門祭(10/22)  
ゴルフ大会(11/6) 春季代議員会(3/13) 他

後輩への支援・・・①トップアスリート奨学金(合格者に授業料相当額給付)  
(新規事業分) ②体育各部特別強化補助費(優秀成績体育各部への補助金拠出)

#### IV. 2006年予算(新規支出予定分)

(トップアスリート奨学金 500万円、体育各部強化補助費 1,000万円)  
以上

## ○新入会員のご紹介

209人目の卒業ほやほや会員です。ご交流よろしくお願ひいたします。

新堀 徳明 (にいほり のりあき) さん (H18 社学)  
〒207-0015 東大和市中央1-11-10 ベルシティ中央101号  
TEL 080-3121-9301

## ○会費納入 (3月31日迄受付分) 有り難うございました。(会計幹事)

齊藤充美、金城寛文、大塚美穂、田邊正史、飯塚輝夫、関一誠、高柳剛、夏山一彦  
田代光一、原田道昭、大内一男、佐藤喜一郎、北野二郎。

会費未納の方(22名)は、封筒の宛名シールに赤い線が引いてあります。

平成17年度 (平成17年10月～平成18年9月) も半期を過ぎましたので、会費の納入をよろしくお願ひ致します。

お問い合わせは会計幹事(井垣) TEL 04-2924-2934まで。

行き違いがありました場合はご容赦下さい。

## 第44回東村山雑学講座報告

平成18年3月4日(土)  
ふるさと歴史館視聴覚室

## 「一人よがりの超大国アメリカー日本のとるべき進路ー」

講師：関 陽一氏

東京都生涯学習センター講師・東京大学英文科卒

関氏は昭和33年テレビ朝日入社、報道局配属、平成13年退職まで各国特派員として活躍、海外取材40ヶ国以上。現在フリージャーナリストとして日本の文化活動に貢献されている。

◎根強く残る黒人に対する差別

\*昭和42年ベトナム戦場取材。35°以上の暑さ、地雷や落とし穴の危険の中、4kmもの長い平定計画。ベトコンのトンネル探索など危険な任務は常に黒人兵に命ぜられる。

\*ニューオーリンズを襲った「カトリヌ」低階層黒人居住の低地帯、今尚ただ水が引いただけの惨状。ニューヨークやワシントンを襲っていたら、ブッシュ大統領はどうしただろうかと苦言を呈せられる。

◎イスラエル(ユダヤ人)に肩入れ

'47国連総会 パレスチナをパレスチナ領とイスラエル領に分割

決議。'48ユダヤ人によるイスラエル共和国建国。'67第3次

中東戦争 イスラエルによるヨルダン川西岸とガザ地区の占領・

入植開始・六日戦争 その背後にアメリカの影。

\*ネオコン(neo-conservatives)の動向。戦争の火種を大切に賞味期限切れ直前の兵器は廃棄せずにイスラエルに売る。

\*ちなみにアメリカの3大ネットワークの会長はすべてユダヤ人である。

◎ブッシュ大統領一人よがりの状況

'90東西ドイツ統一。'91ソ連解体以後

'01.9.11アメリカ同時多発テロは、テロリズムの巣窟とみなすアフガンやイラクへの軍事侵攻正当化。国連無視。安保理決定なしに派兵。しかし大量破壊兵器存在の実証なし。フランスの拒否権を予期した一人よがりではないか。

◎日本のとるべき進路

日本の国際貢献。中国や韓国に対する外交姿勢、憲法九条の問題、自衛のための軍隊、戦争の承認如何、戦争と責任、靖国神社参拝、教科書問題等歴史認識を確実なものにし、相手を納得させるだけの論理武装が必要である。とにかく相手は日本悪者論の世論を形成することで、政権の安定を狙っているのだから。(文責：八木勝利)

講師の関陽一氏にはご講演に先立ち6頁にわたるレジュメをご準備頂きました。1時間余りの限られた時間の中では広範囲な内容について十分言い尽くされなかったことと存じますが、実体験に基づく鋭い考察に聴講者一同満足感嘆の様子でした。(司会進行：三宅)



## 同好会だより

## ヨガ同好会

世話人 大西 幸夫 TEL 395-2817

H18年3月の実施状況

第70回：3月8日（水）

参加者：飯塚、大西、小山、三宅夫人以上4名

気功とヨガを実施しました

第71回：3月24日（金）

参加者：大西、小山、滝川（桜）、額田、三宅夫人以上5名

温かい日で気功とヨガを実施しました。

H18年4月の予定

第72回：4月5日（水）、第73回：4月29日（土）

H18年5月の予定

第74回：5月1日（月）、第75回：5月21日（日）

何れも10時00分～11時30分、東村山スポーツセンター小会議室です。



## カラオケ同好会

世話人 内藤 慎 TEL 393-5071



3月例会は3月4日（土）ドレミにて開催しました。

参加は芦田、赤荻、井垣、大野、高部、高鷲、内藤それに初参加の田代の各氏。春めく一夜を楽しみ各自得意の歌を披露した。

今夜も採点ゲームでは思惑と大差の点数が出たり、気に入らぬコメントがでたり、悲喜こもごもそのたびみんなで大爆笑。

大いに唄い、大いに笑った一夜でした。今後の例会に是非多数の参加をお待ち致します。今後の予定をお知らせいたします。

4月はお花見と重なりますのでお休み。

5月13日（土） 19:00より ドレミ

6月3日（土） 19:00より ドレミ の予定です。  
(内藤記)

## 麻雀同好会

世話人 小野 智 TEL 391-9523  
松永 常尚 332-5621

平成18年第1回（第34回）を3月12日（日）マージャン M にて開催しました。

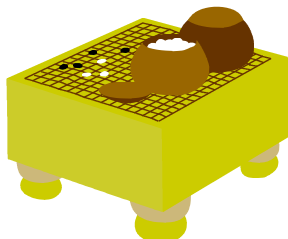
今回は参加者16名（4卓）初参加者、内藤、芦田両氏の自己紹介が終わりPM13:00より熱戦の火蓋が切られました。

成績の結果は優勝者小野、準優勝山下、3位小亀、4位内藤、5位朝木、6位中川以上の諸氏が黒字で賞金大枚を手に入れ、以下全員赤字でB。B當間、土橋、江藤、三宅、松永、井手、芦田、田口、佐野、風間の雀士でした。そして今回の最大の関心事である持ち回り優勝カップは、やはり小野雀士が手中に収めた事（5年前もあり）は本来の勝負強さと、心臓の持ち主（世話人であるにも拘わらず）である事が証明された故でした。

尚全員の技能がレベルアップされてきてまして僅差の得点の開きとなってきましたので次回予定日6月11日（日）が楽しみになって来ました。会員の皆様忘れないように手帳に記入しておいて下さい。

(松永 記)

## 囲碁同好会

世話人 野村 保夫 TEL 394-0417  
高鷲 近 394-2336

## ●4月例会のお知らせ○

●4月例会は4月15日（土）13～17時、いつもの市民センター別館第4会議室です。熱戦を期待しています。

以上

## テニス同好会

世話人 當間昭治 TEL 391-6023



3月の例会は4日(土)久米川コートで実施予定でしたが、クレーコートの宿命か、当日は好天だったものの数日前の雨とその後の霜の影響でコート使用できず、残念ながら中止となりました。次回は好天を期待したいものです。4月と5月は下記の日程です。

記

日時： 4月15日(土) 午前11時～午後 1時  
5月13日(土) 午前 9時～午前11時  
場所： 両日とも久米川コート 3

## 園芸の会

世話人 三宅良太 TEL 394-5298



今年第2回の園芸の会を催します。今回は日頃丹精をして育てた美しい「さくら草」の観賞会です。

日時：4月16日(日) 14時～16時

場所：當間昭治氏宅お庭(久米川町3-14-4 TEL391-6023)

(雨天決行、参加費茶菓代1人500円、駐車可)

鉢を出品されない方もご遠慮なくどうぞお出かけ下さい。大勢のご参加をお待ち致します。次の第3回は春蒔き草花の苗の交換会です。

日時：5月14日(日) 10～12時(当初午後の予定でしたが、会場の関係で午前中に変更しました。)

場所：東村山市市民センター別館2F第2会議室(いつものスポーツセンターではありません。)

## 旅行同好会

世話人 風間和夫 TEL 394-5279

小亀輝雄 TEL 394-6951

## 本年度旅行会について

いわき湯本温泉への旅行日[5月18日(木)～19日(金)]が近づいて来ました。参加の皆様には4月中旬頃に明細書をお届けいたしますが概ね下記の様な予定になっております。

## 18日 集合場所・出発時間

東村山駅東口駅前ロータリー付近 出発8時(サロンバス使用)

新秋津駅前 ロータリー付近 出発8時15分

尚新秋津でご乗車の方は風間迄ご連絡下さい。昼食は各自持参かサービスエリア等ご利用下さい。観光後旅館へ！懇親会は6時を予定しております。

## 19日 観光後湯本ICから帰途へ！

東村山(秋津経由) 着は6時頃と思います。

## 郷土史の会

&lt;お知らせ&gt;

世話人 三宅良太 TEL 394-5298

今回は、東村山ふるさと歴史館で企画展「初代若松若太夫展－哀切なる弾き語り－説教節－」が4月25日(火)～6月25日(日)の間、開催されます。大正期から昭和初期にかけて、説教節を再興し、舞台・ラジオ・レコードなどで活躍した初代若松若太夫。その芸の軌跡を、愛用の品(三味線、見台等は母校早稲田大学演劇博物館所蔵)や写真などの資料を通してたどる企画です。

そして三代目若松若太夫(ふるさと歴史館学芸員小峰孝男氏－東京都指定無形文化財(技能)保持者－以前郷土史の会で講演して頂いたことのある方)が5月14日(日)と6月11日(日)の午後2時～4時視聴覚室で説教節の公演をされます。(入場無料 先着80名)興味のある方は早稲田とのご縁も含めてこの機会に是非ご見聞をお薦めいたします。

## 俳句同好会 (稲酔会)

世話人 高杉修 391-8447  
井垣和太 04-2924-2934



第26回の稲酔会句会は、下記の予定で新緑の多摩丘陵を歩いての吟行句会を企画しました。

春たけなわの里山をウオーキングしながら、ウグイスやコジュケイの声に耳を傾け、いきいきとした若葉の木々の間を、散策しての感動を17文字(音)に表現してみましょう。

歩くだけなら参加してみようかなという方もどうぞお出かけ下さい。大歓迎です。

記

開催月日  
集合  
吟行場所

平成18年4月22日(土)  
午前9時 東村山駅4番ホーム(9:11西武園行きに乗車)  
西武線西武園駅を起点に、荒幡富士→いきものふれあいの里センター→鳩峰公園など多摩丘陵回遊(昼食はそば屋を予定)

句会場

午後1時～4時 東村山市ふるさと歴史館 研修室

作句される方は、歳時記・筆記用具等を携行してください。

(稲雀記)

## ゴルフ同好会

世話人 堀田秀夫 090-8339-7179



第19回会長杯コンペのお知らせ

今年度第一回の会長杯(第19回)を4月18日(火)武蔵の杜カントリークラブ(旧奥武蔵)で行うことになりました。どうか日頃の実力を発揮されますように、皆様多数の参加をお待ちしております。新参加の方、奥様の参加大いに歓迎です。なお、組合せ、配車など詳細ははがきでお知らせします。四組16人までですので、参加希望の方は、早めに携帯までご連絡下さい。

日時: 4月18日(火)

コース: 武蔵の杜カントリークラブ 埼玉県入間郡越生町  
049-292-6311

スタート: 8時35分より4組を予約しております。

費用: 16,000円(乗用カート・キャディ・昼食・パーティ費含む)  
参加費: 3,000円

## 3月度「お誕生会」報告



3月度のお誕生会は4日例会場の久米川駅南口「丸藤」で行われました。該当者16名のうち9名(朝木、井垣、遠藤、大野、鈴木、関(一)、高柳(剛)、田代、豊田)の方々が出席。

当日の雑学講座の関講師、山下会長以下17名と合わせて総勢26名。過去最多の人数でした。

山下会長の挨拶、三宅副会長の乾杯に続き、全員によるハッピーバースディの合唱とくす玉割のイベント、記念品の贈呈の後懇親会に移りました。途中で退席されましたが、関講師(東大卒)からは東村山稲門会に対するエールをいただき、又恒例の3分間スピーチは朝木さんから順に実施されました。生まれて以来の東村山人で自宅前の川で遊んだ思い出を語った人、ジョギング好きでホノルルマラソンに出場した人、仕事の関係で墓石を扱っており最期はめんどうを見ますとPRされた人、又地方なまりも飛び出しなごやかな雰囲気の中で2時間が過ぎました。例によって居残り組とカラオケ組、帰路についた人に分かれてましたが、今後もいろいろな企画を考え楽しい会にしたいと思っています。

(担当幹事 當間昭治)

## 俳壇

お詫び

前号の俳壇幸田瑞雄さんの句は他人の句を掲載しました。  
深くお詫びしますとともに、今月の俳壇に掲載させていただきます。

|                                                    |      |
|----------------------------------------------------|------|
| 標石にへんたいがなや西行忌<br>山焼くや村史に残る仕様継ぎ<br>戻れよと故山笑ひてゐたるなり   | 高杉風至 |
| 焼きあがる春のジャムパンコッペパン<br>目隠しの中に目つむり雛の間<br>恙なく堰を越えたる紙雛  | 菊田一平 |
| 畑打の仲良き腰の曲がりかな<br>乗りに乗るビニール袋春嵐<br>中日や古きアルバム出してみる    | 井垣稲雀 |
| 白魚に黒目ちいさく目だちけり<br>薄氷や寛の水は早からず<br>青と黄の男児と女兒の傘の春     | 八木竜湖 |
| つつがなき春の朝や水光る<br>山笑ふ眠れる犬は上向きて<br>またひとつ歳重ねたり辛夷咲く     | 大野恵峰 |
| 青柳や花の近きを告げにけり<br>おぼつかぬ足春昼を彷徨ひて<br>ふるさとの野のよみがへる彼岸かな | 丸本北窓 |
| 縁側におはぎと煎茶猫膝に<br>父の歳越えて彼岸の花供え<br>山寺に木魚の響き彼岸かな       | 内藤慎  |
| 艶を増す木の芽と語る老いし母<br>老犬の転ぶ鼻先草萌ゆる                      | 幸田瑞雄 |



早稲田に学んで今・・・

大野恵子（S46文）

今思えば、あれが「燃え尽き症候群」だったのだろうか？それとも都会と田舎との差が大きかった結果だろうか？早稲田の杜に立ち、入学式後の写真撮影にうつる我が顔は、何とも戸惑いの表情をしている。

稲作と酪農で、土地はあれども貧しい家に育った。父は子無き祖母の養子であった。高等小学校より上には行かせてもらえず、長女の私が『数学は全く駄目』と来ているので私立に進むしかないと分かった時「よし、禪を質に入れてでもやってやるから頑張れ」と言ってくれた。早稲田は父の夢でもあった。近衛兵として上京し、その後ビルマ戦線にまで行った父が命からがら生還した夢も背負っていた。

猛勉強（しないで入った人もいるらしいが私は）の甲斐あって無事入学。しかしその頃の東京は田舎娘には驚きの連続だった。生活が田舎とは違い過ぎる。その落差に茫然としてしまった。が、何しろ貧しい中から仕送りをしてくれるのであるから、働くしかない。12,000 円の特別奨学金ももらったが、当初の下宿は中野にある耳鼻科医院の住み込みに決めた。朝夕の食事付、朝の掃除と夕方の診療手伝いを含めて 5,000 円のアルバイト料ももらえた。年間の学費は 80,000 円だった。

1年3ヶ月頑張ったが、「何のために早稲田に来たのだ？」と勉強そっちのけで働く自分に嫌気が差し、2年になって初めて時間に束縛されない下宿生活となった。3年の時「山歩会」という同好会に入り南北アルプス、谷川、八ヶ岳などの山行を楽しんだ。燃え尽き症候群から立ち直れた時期かもしれないが、勉強の方はさっぱりだった。今思えばどうしてもっと寸暇を惜しんで勉強しなかったかと悔やまれる。

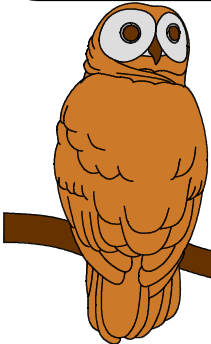
その頃早稲田は長期ストに突入、1年以上も休講が続き文学部はバリケードで出入りもままならない状態だった。その夏、帰郷した折り父が妙な事を言った。「お父さんに何かあっても絶対早稲田はやめたらいかんぞ」「何言ってるの？家に帰って来て牛を飼うよ」「いや、絶対卒業せん」とそんなやり取りをしバイトのために上京した5日後、「父危篤」という電報が来た。父はその頃過労と農薬禍で体調を崩していたのだった。49歳での父の急死・・・ここで私は完全に目的と軸を失ってしまった。命のはかなさを思い知らされたことで、虚無感から立ち直れないほどだった。

しかし父と約束した卒業だけは、の思いが支えとなった。憧れだった暉峻教授の西鶴も卒論として面白かったし、今こうして稲門会にいられるのもこの時に頑張った結果だろう。早稲田というだけでできる繋がりも嬉しい。果たせなかった目的も、やり残した事も沢山ある。幾つもの分岐点で違う道を選んでしまったのかもしれないが、これから・・・と思ってこれまでの自分に別れを告げ、新たな航海に漕ぎ出す事にしよう。

## 多摩湖ふくろう通信 No 52

2006. 4. 3

戸田 志郎



最近、「団塊よ、死ぬ前に闘え」とか、「昔、革命的だったお父さんたちへ」とか団塊世代にエールを送る書物がめだってきている。

ご承知のとおり「団塊の世代」とは、1946年から48年に生れた人たちだといわれている。50年まで入れると約800万人になり、51年生れまで入れると1045万人となって、総人口の1割にも達する。

団塊の世代は戦後の高度経済成長のなかで青春時代を過ごし安定成長を支えた。

1970年前後の大学紛争で既存の体制に異議を申し立てたのち、多くの男性は会社人間として、女性は専業主婦となった。その生き方は「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という戦後の日本家庭の典型的な生活様式を定着させた。

子供時代に米国のホームドラマでみた家電製品と郊外住宅と車を、自分たちも持ちたいという夢を実現し、大衆消費文化の担い手となった。

団塊の世代が、今や定年を迎えんとしている。

年長の世代がつくった制度・慣習にそのまましたがって退職し、貯蓄と年金にたよって、社会保障負担を膨らませる人口の「塊」に終わるのか、社会の活力を高める大きな原動力として、日本をけん引していけるのか。問題は、その数の力がどの方向に向かうかということである。

団塊の世代の特徴を、『AERA』（90年3月27日号）で、「団塊世代の8悪」という記事が掲載されている。

- ①「過剰意義付け」。これがないと動けない。
- ②「理論過多」。回りにいるとうるさい。
- ③「押し付け」。自らの主張の行きつく先を押しつけたがる。
- ④「緩急不在」。何事にも積極的だが、せっかちすぎる。
- ⑤「戦略不在」。目先の戦術にだけ強く、長期的ビジョンがない。
- ⑥「被害者意識」。他世代への加害者意識はなく、もっぱら被害者意識ばかり。
- ⑦「指導力不足」。過当競争の中でリーダーシップを忘れてきた。
- ⑧「無自覚」。以上の点に全く気づいていない。

70年代に、団塊の世代は政治や社会に異議を申し立て、そこで提起した問題—「資本主義というのは競争主義で人々を疎外するものである」「マスプロ教育への批判や民主主義への危機感」「ベトナム戦争への反対」などは正しいものである。

今、日本は、すでに失敗した道を一生懸命進もうとしている。右傾化の問題も、第2次世界大戦はやむを得ないもので、日本は間違っていなかったなどという国は日本しかない。

若い日の問題提起をもう一度思い起こして、若いときとは違った形で、政治や社会に関わることが求められている。

博報堂が40—60歳代の人に「引退後に社会的役割を持ちたいと思っているか」を尋ねたところ、団塊世代では40代や60代に比べ「持ちたい」と希望する人が多かった。

### 東村山稲門会設立10周年イベント基金募金100万円突破！

更なる事業充実への寄付金にご協力をお願いいたします。  
10月まで受け付け中

**3月31日現在 1,065,000円 (40名)**

ご芳名 (前回以降受付順 敬称略)

関一誠 (1口)、高柳剛 (1口)、伊藤友己 (2口)、岡田一郎 (2口)、滝澤利久 (2口)、久世利夫 (4口)、紅松喬・容子夫妻 (2口)、原田道昭 (2口)、肥沼恒夫 (2口)、山室勲 (2口)、重原淳郎、真知子夫妻 (6口)、高部素行 (2口)、上幸雄、素子夫妻 (4口)、富塚哲夫 (4口)。

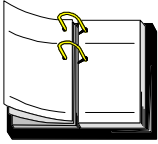
寄付金 (1口 5,000円) のお振り込みは 下記銀行口座へ

みずほ銀行 久米川支店

普通預金 1876557 早稲田大学東村山稲門会

※郵便振替口座へ振り込まれても結構です。

基金担当 井垣



### 今月の予定

- 8日(土) 4月度役員会  
 9日(日) お花見会・お誕生会  
 15日(土) テニス同好会  
           囲碁同好会  
 16日(日) 園芸の会  
 18日(火) ゴルフ同好会  
 22日(土) 俳句同好会  
 29日(日) ヨガ同好会

### 5月の日程(前半)

- 1日(日) ヨガ同好会  
 13日(土) 5月度役員会  
           雑学講座  
           テニス同好会  
           カラオケ同好会



## 編集局だより

編集局：小亀、伊藤

○ いよいよ4月、新年度となりました。大学職員として在職中は3月25日に卒業生を送り、4月1日には、新入生を迎え校歌の一節にある「集まり散じて人は変われど…」を実感する時期でした。最近では古稀を目前にして「年々歳々花相似たり、歳々年々人同じからず」という唐詩が頭をよぎります。

それにしても、WBCの野球の日本チームの優勝には感動しました。日本の政治家も二世三世ばかりでなく、イチローのように世界にも通用する人材を各界から集められたら、もう少しましな政治が出来るのではないかと飛躍したことを考えました。(小亀)  
 ○冬から春へあっという間に季節が移りすぎていく気がします。我が家の窓からは桜の木々が枝振り豊に春の訪れを告げています。毎朝カーテンを引くのが楽しみな季節です。  
 ○この春、靖国神社近くの九段下にある千秋文庫に通い詰め、千鳥ヶ淵の春の訪れを肌感じていました。千秋文庫というのは秋田藩佐竹家の資料館です。靖国神社を右に眺めながら通ったのですが、通りすぎながら靖国神社の姿に改めて考える事がありました。中国戦線で戦った私の父は、靖国に行くとき妙に高揚していたことを覚えています。千代田区の中学生であった私は、学校帰りに内緒で遊就館に通ったことがあります。千鳥ヶ淵の戦没者慰霊碑の荘厳なたたずまいも覚えています。この風景は本当はそれぞれ政治の話題からは遠い処にある風景です。心の問題と唱えながら、本当は誰が私達の心の問題に土足で踏み込んで行ったのでしょうか？

○次回原稿の締め切りは1次が4月24日、2次が29日です。宜敷お願いいたします。

(伊藤)

### 《追い書き》

- ・「おいがき」を変換したら「老いが来」。冗談じゃないともう一回やったら「老い垣」となった。次は「老井垣」になりそうなので、「おい」「かき」に分けて変換。
- ・この囲みには「清瀬稲門会のオペラ」の記事があったのだが、4月9日では「六日の菖蒲」になるので、校正を頼まれた序でに駄文に差し替えお許しあれ。
- ・「ふくろう通信」みたいに、格調高くはないが、どこかでチクリとなにかを刺したいと次号から3章6行のコラム「追い書き」を開始。見てくれるかな？